

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度技術情報第14号（大豆・野菜類・花き類）について（送付）

下記のとおり情報を取りまとめましたので送付します。

平成22年度技術情報第14号

県内各地のフェロモントラップで、ハスモンヨトウの誘殺虫数が増加しています。今後、大豆、野菜類、花き類で被害が予想されますので、適期防除に努めてください。

- 1 農作物名** 大豆、野菜類（イチゴ、根深ネギ、オクラ、キャベツ、サヤインゲン等）
花き類
- 2 病害虫名** ハスモンヨトウ
- 3 予報内容**
 - (1) 発生地域 県本土、熊毛地域
 - (2) 発生量 並～やや多
- 4 予報の根拠**
 - (1) 8月中～下旬の巡回調査での発生ほ場率は、根深ネギで68%（平年43%）、サトイモで100%（平年87%）と平年より高かった（表1、図1）。
 - (2) 南薩地域の施設キクでも中発生ほ場を認めた。
 - (3) 県内各地のフェロモントラップでの誘殺数は8月以降増加傾向にある（図2）。
- 5 防除上注意すべき事項**
 - (1) 8月5半旬の成虫発生に由来する次世代幼虫のふ化時期（防除適期）は9月2半旬頃と予想されるので、ほ場を見回り早期発見に努める。
 - (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
 - (3) 薬剤防除は若齢幼虫期に行うが、若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので、これを目安に防除する。
 - (4) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などにも産卵し、編み目からふ化幼虫が施設内に侵入するので注意する。
 - (5) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる系統薬剤とのローテーション散布に努める。

表1 ハスモンヨトウの発生ほ場率

作物名	発生ほ場率 (%)			概評
	本年	前年	平年	
イチゴ	18	41	44	低い
根深ネギ	68	89	43	やや高い
サトイモ	100	100	87	やや高い
オクラ	10	50	60	低い
大豆	92	75	94	並
サマイモ	3	22	13	やや低い

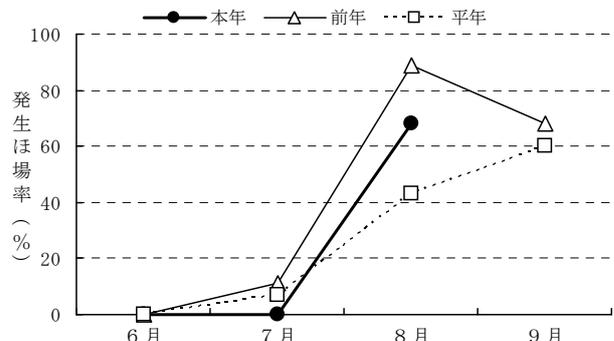


図1 ハスモンヨトウの発生ほ場率 (根深ネギ)

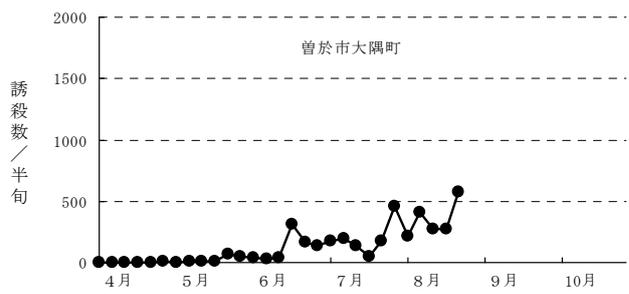
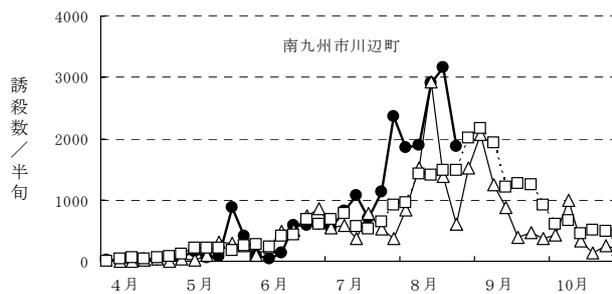
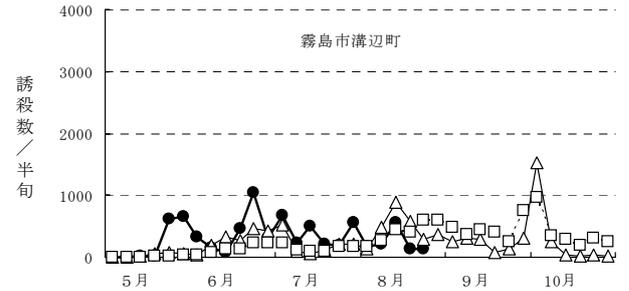
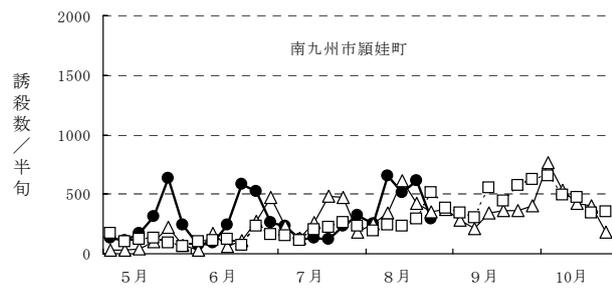
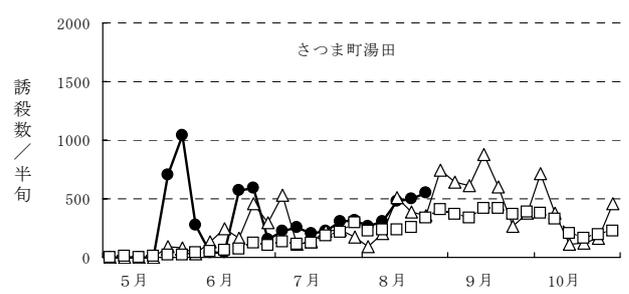
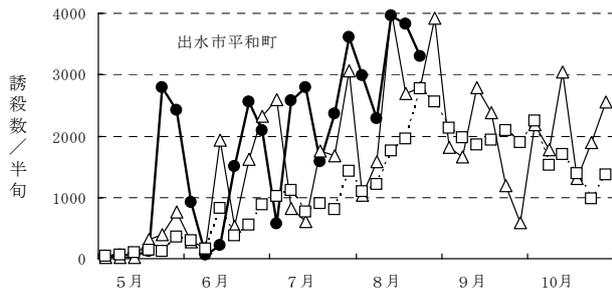
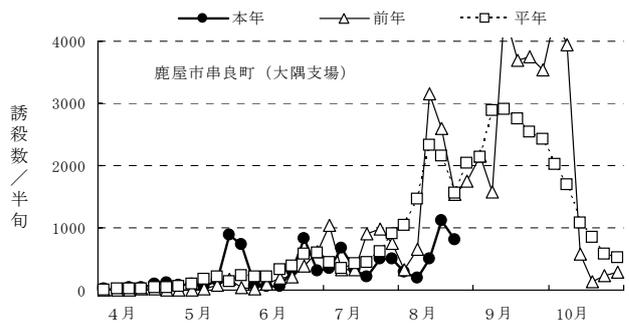
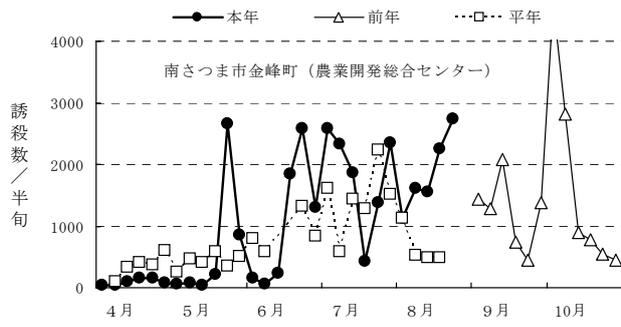


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺状況（2010年8月第5半旬現在）